カスミサンショウウオ

【所　在　地】出水市，阿久根市（地域を定めず指定）
【種　　別】県指定天然記念物
【指定年月日】平成２６年４月２２日

カスミサンショウウオ

カスミサンショウウオの卵嚢（らんのう）

カスミサンショウウオは，止水性のサンショウウオで，鹿児島県の北部地域の出水平野は本種の南限になっている。低地性で，多くは平野の周辺にある丘陵地などにすんでいる。

成体は，普段は丘陵地などの林床の倒木や落葉，石の下，浅い土壌中などに潜んでおり，主として夜間に行動する。繁殖は年１回，１月下旬～４月上旬にかけて行われる。産卵場は止水域で，湿地，水田の溝，浅い池や沼などが利用されることが多いが，場所によっては流れが緩やかな沢などでも産卵がおこなわれることがある。

本種は，種全体としては日本固有種であるが，形態や遺伝形質にかなりの変異があり，生息地別に日本固有亜種として，それぞれが亜種レベルで分類・整理されつつある。鹿児島県の北部地域に生息するカスミサンショウウオは，日本における最も南の位置に分布・生息する地域個体群として重要な意味を持っている。また，国内の分布状況は地史との関連が強く，学術的に貴重な種である。